



「今」インタビュー ③

「これからどうするのか、ある意味、人生の窮地に置かれている年代だと思えますね」

——この曲では<今の自分がありたいようにあれますように>と歌ってます。琴音さんはどんな自分でありたいですか。

琴音 (以下 K) 「日頃のことというなら、平穩に、今まで通りにいたいと思いますし。人としての最低限の礼儀や道理と自分の意思のバランスが安定した今の状態で、人と関われるようでありたいと思います。自分を表現する場においては、やっぱり“温かみ”をずっと持っていたいですね」

——大人にはなりたいですか？ 琴音さんは同世代の子よりも先に社会に出て、たくさん大人のを見てると思いますが。

K 「周りとか合わせたり、周りのご機嫌を伺ったり、同調することが大人なんだったら、大人にはなりたくないなと思います。でも、人として出来上がってる人が大人なんだったら、大人になりたいと思いますし。どうなんですかね？ ……同世代でも大人だなんていう人もいれば、キャピキャピしてる人もいますし」

——17歳ってどんな年齢ですか？

K 「私は高校3年生なんですけど、周りは18歳になってて。この先どうなりたいかが決まっている人もいるし、何がやりたいかわからないけど、とりあえず進学しようっていう人もいますし。自分と同じように、こういうふうな仕事に就きたいとか、こんな人になりたいというのが明確にあって、それを成し遂げるためにどう進むかって探っている人もいます。これからどうするのか、ある意味、人生の窮地に置かれている年代だと思えますね。端から見えても、焦りを含めた、いろんな感情が垣間見えて。自分も思い悩むことはありますけど、みんなも、すごく苦しんでたりするんだな、大変だなんて思えますね」

——琴音さんはやりたいことは見つかって、その道を進んでますよね。

K 「見つかってますけど、自分が今、シンガーソングライターとして足りないなって実感しているところをどう埋めるか。そのために一番いい策は何なのか？ っていうのは、悩むところですね。ま、何にせよ、ここ1年ちょっとで、今まで以上に生きているスピードが早くて。これまでにないことを経験することが多くて。自分自身も、その時間に巻かれていってるような気持ちが未だに拭えないので。ずっと、シンガーソングライターになりたいっていうのがあったんですけど、ある意味、それは叶ってしまったので、願望がふわふわってしているところがあるんですけど、やっぱり、自分の曲を聴いた人が、元気になってくださったりとか。お客さんから手紙を頂いたりすると、逆に自分はどれくらいのことできるんだろうかってことが、そっちの方が考えもんだったりするので。難しいですけど、とりあえず、今できることを頑張ってみようって思います」

——1st シングルでは聴き手にどんな思いが届いたらいいなと思えますか？

K 「人と関わる上において、自分がどうしたいのかっていうことを考える機会になったらいいなと思いました。この曲を聞いて、ありのままにいたいと思うのもいいし、ある程度、自分を隠して生きていこうって思ってもいい。周りに嫌われないように怯えて過ごしていたけど、少し変わってみようって思ってくださる人がいたら嬉しいなって思えますね。それに、これでも自分としては、自分なりの全力は尽くしてきたつもりなんですけど、今まで以上に熱量があるというか、頑張ったなっていう作品になった気がして。右も左もわからんような状況でメジャーになって。音楽制作がこういう風に進んでいくんだっていうことがある程度、分かった上での1枚なので、自分にとっては、経験を1つ持った上での作品という感じがあって。今、現在の気持ちの面においての記録というか。思っていることを深く表現できたような気はしていますし、自分の伝えたいことは詰め込めたんじゃないかなって思います」